


こころと身体のクリニック
医療法人社団
五稜会病院


精神科患者に対するWAIS-Ⅲ 簡易実施法の有用性

医療法人社団 五稜会病院
臨床心理士 春名大輔



はじめに


Wechsler Adult Intelligence Scale (WAIS-Ⅲ)



能力的な
アセスメント
診断・理解・
介入の一助

実施に長時間
を要する

そこで、
短縮実施による知能推
定法が開発されている。




精神疾患を対象とした 簡易実施法の検討

Blyler, Gold, Iannone, & Buchanan (2000)

- 統合失調症患者41名を対象に検討。
- 知識、積木模様、理解、類似の4尺度による推定が有効と報告。

大六, 山中, 藤田, 前川 (2009)

- 4尺度による簡易実施法を報告。日本版WAIS-Ⅲ刊行委員会(藤田, 前川, 大六, 山中, 2011)が簡易実施法として提唱している。
- 精神疾患を対象とした検討は散見されない。




目的

- 本研究では、日本版WAIS-Ⅲ刊行委員会
が提唱する簡易実施法について、精神疾患
者を対象に有用性を検討した。

倫理的配慮

- なお、本研究は統計的处理によって個人の
情報が特定されないよう十分に配慮し、院
内倫理委員会の承認を得て実施した。



方法～対象者～

- 知的水準の測定を目的にWAIS-Ⅲを実施した87名の結果を分析の対象とした。
- 87名中24名は、検査実施の目的から、全検査IQの算出に必要な11下位検査を実施、63名は13下位検査および補助検査を実施している。
- 対象者の診断および性別をTable1に示した。




Table1.対象者の診断と性別

	N	Male	Female
物質使用による障害	2	2	0
統合失調症	7	4	3
気分障害	11	7	4
神経症性障害	5	1	4
人格障害	1	0	1
精神遅滞	24	18	6
広汎性発達障害 (PDD)	32	25	7
注意欠陥多動性障害 (ADHD)	1	0	1
PDDとADHDの合併	2	1	1
行動および情緒の障害	2	1	1



方法～推定IQ～

- WAIS-III刊行委員会が推奨する4下位尺度（知識、数唱、行列推理、符号）による推定IQを算出した。
- 対象者の年齢、全検査IQ、推定IQ、全検査IQとの差、差の絶対値それぞれの平均値と標準偏差および最小値、最大値を示した（Table2）。

方法～統計分析～

- 推定IQを説明変数、全検査IQを従属変数とした回帰分析を実施した。



Table2. 対象者の各指標の平均値、標準偏差、最小値、最大値

	M	SD	Minimum	Maximum
年齢	29.36	11.21	16.00	61.00
全検査IQ	82.39	20.57	45.00	126.00
推定IQ	79.20	23.42	32.00	124.00
全検査IQとの差	-3.20	7.51	-27.00	14.00
差の絶対値	6.46	4.95	0.00	27.00



結果 回帰分析の結果

- 相関係数および決定係数は有意であった（ $R=.950$, $R^2=.902$, $p<.001$ ）。
- 精神科患者を対象とした推定IQが全検査IQを強く予測し得ることが示唆された。



考察 推定IQが全検査IQの予測に有益

- 精神疾患では、下位尺度にばらつきが生じることも珍しくないが、精神疾患を対象とした簡易実施法でも推定IQが全検査IQの予測に有用であることが示唆された。

考察 簡易実施法が有用であること

- 知能検査は性質上、多くの患者に実施することは現実的に困難であり、簡易実施法が有用であることは、より多くの患者の知能を知ることが可能にしてくれる。

考察 精神科臨床への利益

- 個人を理解する上では、全ての下位尺度を実施することが必要ではあるが、おおよそのIQが簡易に得られることは、患者の理解や治療、介入の一助となることが期待できる。



課題 推定IQと全検査IQとの差

- 全検査IQとの差が生じた例も存在した。大六ら（2009）が示したデータ（差の平均:-0.09、差の絶対値平均:5.90）に比べ、Table2に示した差の平均や差の絶対値の平均は有意に異なる可能性も考慮される。
- したがって、精神疾患患者では差が大きく生じる可能性が以前として残る。

課題 差を生じさせる要因は？

- 簡易実施法によって得られる尺度あるいは年齢、疾患といった情報に、生じる差との関連がないかどうかを検討することは、精神科臨床での利用にさらに有益と考えられる。
- より多くのデータを蓄積し、このような要因を検討することが今後の課題といえる。

引用文献
 Elver CR, Gold JM, Iannone VN, Buchanan RW. (2000). Short form of the WAIS-III for use with patients with schizophrenia. *Schizophrenia Research*, 43, 209-215.
 大六一孝・山中克夫・藤田和弘・前川久男 (2009). 日本版WAIS-IIIの簡易実施法 (2) - 全検査IQを推定する方法の比較 - 日本心理学会第73回大会発表論文集, 433
 藤田和弘・前川久男・大六一孝・山中克夫 (2011). 日本版WAIS-IIIの簡易事例と臨床研究. 日本文化科学社